

奈良県障害者雇用促進ジャーナル

はたらく

NO. 16

2022.December

障害のある人の就労を応援する

特集:障害者雇用の取組紹介

意欲のある従業員を育てる

葛城工業株式会社 王寺工場

就労・生活支援事例紹介

やりがいをもって共に働き、夢を叶える

株式会社パル Discoat

奈良県障害者政策推進トップフォーラム

障害者雇用支援制度

奈良県・奈良労働局

障害者施設で作成しました

【写真】葛城工業株式会社王寺工場で働く西川さん

障害者雇用の取組紹介

葛城工業株式会社 王寺工場



erview
意欲のある従業員を育てる
チャレンジから育成へ

金属の部品を機械に通すと、ネジが打ち込まれ、奥側に落ちる。この機械の操作がこの日の西川さんの仕事だ。



葛城工業株式会社 王寺工場 外観

会社紹介

葛城工業株式会社は、建築金物の製造販売、板金部品・プレス部品・機械加工部品の製造・組み立てから検査、梱包、発送まで一貫して取り扱われており、178名の従業員が働いています。鉄やステンレスなどのフレームやパイプ・アングルの加工を中心に取引先にはTOTO、LIXIL、YKK AP、タカラスタンダーなど業界のトップメーカーが連なり、ISO9001を取得するなど、特に品質管理に力を入れています。

北葛城郡広陵町にある本社工場は、昭和49年に創業し、現在で

葛城工業株式会社 王寺工場



取締役総務部長の瀬上さん

は、本社工場に加え、王寺工場（北葛城郡王寺町）と三重工場（三重県伊賀市）が稼働しています。

現在の障害者雇用の状況としては、知的障害のある人を3名、身体障害のある人を4名雇い入れています。今回の取材では、平成24年に新設された王寺工場で正社員として活躍されている西川寛人さんの雇用事例についてお話を伺いました。

障害者雇用のきっかけや経緯

「うちでは、障害者雇用を特に意識するとか、力を入れるとか、そういうことはなかったですね。」と、同社取締役総務部長の瀬上さんは淡々と話されます。「10年以上前に県立高等養護学校の卒業生を雇い入れたのが最初でした。『きつと仕事

ができる生徒だと思うので、一度実習させていただけられないでしょうか。』と学校の進路指導の先生が会社を訪ねて来られました。それまでは障害のある人とはどんな人たちなのか、全く知りませんでした。数字が苦手な生徒だということでしたので、それでは障害というほどではないかと思いい、実習を受け入れることにしました。」と当時のことを話されます。もうひとつのきっかけは、製品の梱包などの単純作業を同社の工場内で障害者支援施設（社会福祉法人ぷるぼの）の利用者が職員とユニットを組んで受託した作業を行う施設外就労の申し出を受けたことだそう。当時は、取引先から単純作業を主とする業務を受注していたため、障害のある人がやっていたける仕事を提供することができるとあれば、その障害者支援施設に業務委託することになったとのこと。これらのきっかけで同社の障害者雇用が始まりました。その後、ハローワーク主催の就職面接会に参加する他、パートタイマー応募

意欲のある従業員を育てる

者の中に身体に障害のある人がいたことも含めて、現在では、7名の障害のある人が活躍する会社になりました。

代表取締役の吉岡弘修さんが、同社の障害者雇用の事例のひとつを紹介してくださいました。

「雇い入れていた身体に障害のある青年が、正社員として雇い入れてくれる介護職へ転職したいと辞めていったことがありました。当時の彼の仕事実績から正社員にすることは難しいと判断していたこともあり、本人が決めていたことなのでやむなしと考え彼の退社を受け入れました。その後、しばらくしてから彼は現場の責任者のところに『自分の働く会社は、葛城工業株式会社だということの方が分かりました。自分の足で立つて生活がしたい。』と連絡してきました。現場の責任者から、もう一度彼にチャレンジさせてみたいとの推薦がありましたので『意欲のある

従業員を大事に育てる。』という弊社の理念を生かして、再度雇い入れることにしました。その後、現場に戻ってきた彼はメキメキと実力を発揮するようになり、現在では正社員として生き生きと活躍されています。」

この青年が今回の取材に協力してくださいました西川さんです。西川さんは、右手に障害がありますが、自分で工夫しながら苦手だった手先の作業を克服して働いています。

彼が働く王寺工場の2階のフロアは、組み立て作業を担当する従業員13人が働いています。ブーンという機械の音が低く小さく響き、金属がチャリンと触れる音が聞こえる一角で、若者らしく髪をライトにカラーリングした西川さんが、背丈より少し高さのある機械の前に立って作業に取り組んでいました。



代表取締役の吉岡さん



笑顔で語る西川さん

西川さんは、岡山県にある職業訓練校の紹介で同社に研修に来たことを機に、8年前にパート社員として同社に就職しました。数年同社で勤めた西川さんは、その後一度退社して介護職に転職しました。転職をした理由について本人に尋ねてみると「まあ、お金ですね。」と率直な答えが返ってきました。自立した生活をしたいという意欲があるからこそ、正社員になってより高い収入を得た

いと考えていたようです。転職して望みどおり正社員として就いた介護の仕事でしたが、働いてみて、介護職は様々な人にケースバイケースで対応しなくてはならない仕事なので自分は人と接する仕事には向いていないということ、また、収入は確かにアップしたけれど葛城工業での残業を含む収入と比べてみれば大差はないということに気づいたようです。

半年ほどで介護職を退職し、就職先を探す中、葛城工業の現場の上司でグループリーダーの榎野（まのの）さんに連絡を入れ、「もう一度、葛城工業株式会社で働きたい。」と再就職の意欲を伝えました。

自分で考え仕事に真摯に向き合う彼の姿勢を良く理解していた榎野さんは、「それなら工場長に話をしてみるよ。」と即答したそうです。榎野さんは早速、上司の工場長に西川さんから連絡があったこと、チャレンジする機会を彼にもう一度与えてあげてほしいことを願い出しました。このことが社長に伝わり、前述の通り復職が実現することになりました。再びパート社員としてスタートすることになりましたが、西川さんは「再就職が決まった時に正社員になりたいと言わなかったけれど、またここで頑張ろう、いつか時給が上がるといいなあ。」と思っていたそうです。

その後、彼の熱心な働きぶりが高く評価されることとなり、今年の4月に念願の正社員となることができました。

チャレンジから育成へ

榎野さんは、西川さんのことをこう語ります。「どうすればできるのか、自ら考える姿勢が彼にはありません。機械を操作する際、効果的な方法を自ら考えて工夫しています。昨年ごろからは、徐々にこれまでの仕事以外のことへの意欲も出てきて、半自動機（ロボット）を使う仕事にも取り組んでいます。本人に意欲があるから、『こんなことしてみる?』という声もかけやすいんですよ。チャレンジしてこなせる仕事が増えれば欠員が出たときに替わってもらえることができ、会社にとってもメリット



榎野グループリーダーのもと、13人が働く2階のフロア。西川さんもその一人。

葛城工業株式会社 王寺工場



葛城工業株式会社王寺工場にて。左から瀬上さん(総務部長)、西川さん、榎野さん(グループリーダー)



イラスト入りで仕事の流れがわかりやすく説明されています。

トがあります。」

チャレンジすることは、スキルアップを目指す西川さん自身とその意欲を受け止める会社との両者によって可能になるものだと思います。

瀬上さんは「今の単純作業の仕事の注文が将来も続くかどうか先のことはわかりませんが。」と現実も見据えておられます。

障害がある人の就労が続いていくためには、就労支援施設や学校など関係する機関の支援に加えて、職場の上司や同僚などの障害がある人への理解や配慮は欠かせません。

そして、障害がある人の多様な就

労ニーズを踏まえた柔軟な働き方と、5年後、10年後の自分のありたい姿を思い描き、やりがいをもって働くことができるキャリア形成を支援する取組など、雇用の質に視点を向けていくことも重要になってきています。

最後にフロアを見渡しながら、瀬上さんが「榎野グループリーダーはね、優しいところがあるんですよ。」と一言つぶやかれました。システム化や数値化できないものに支えられていると感じた一言でした。

会社名 葛城工業株式会社
本社工場 奈良県北葛城郡広陵町沢338
TEL 0745-56-6335 FAX 0745-56-3112
王寺工場 奈良県北葛城郡王寺町畠田1丁目220-1
TEL 0745-73-6088 FAX 0745-73-6099
代表者名 代表取締役 吉岡 弘修
創業開始 昭和49年(1974年)
事業内容 建物金属の製造販売

※ 奈良県障害者雇用優良事業所知事表彰
令和4年度 受賞

就労・生活支援事例紹介

やりがいをもって共に働き、夢を叶える

本誌では、これまで障害がある人の就労について、職場の上司や同僚など周囲の方々の配慮や理解が重要であるとともに様々な障害者雇用支援制度があることを紹介してきました。一方で、障害のある人が職場でやりがいをもって働き続けるためには、本人の希望や夢を叶えようとすることも大事な要素のひとつであると思います。そこで、今回は、アパレル業界で働きたいと小さい頃から思い描いてきた将来への夢を叶えて、日々笑顔で働く聴覚に障害がある方を紹介します。



バックヤードで商品整理をする中山さん

職場実習を体験して 感じたこと

中山空美なみやまそらみさんは、令和4年3月に県立ろう学校（奈良県大和郡山市）を卒業し、同年4月から株式会社パルに就職することになりました。現在、イオンモール大和郡山にあるDiscoat（ディスコート）というアパレルショップで働いています。

県立ろう学校在学中に、学校の先生や家族の勧めで、県庁や金融機関などオフィスでの事務補助の仕事を経験する職場実習に参加しました。聴覚に障害があるため、パソコンを使った事務系の仕事に就くことで安定した就労につながるのではないかと周囲からの意見を受け入れたことでした。

職場実習では、様々な事務補助の仕事を経験することができたのですが、自分のやりたい仕事がそこにあると感じることはなかったそうです。

やりがいをもって共に働き、夢を叶える



何事にも積極的な仕事ぶり

決断のきっかけ

卒業後の進路について、担任の先生や進路指導の先生、そして家族とも時間をかけて相談していましたが、「小さい時から服が好きで将来はアパレル関係に就きたい！でも聴覚に障害があるから無理かな。」と諦めかけていた時、お兄さんの「好きでもない仕事に就いて後悔するんやったら、好きな仕事に就いて後悔した方がいいんじゃないか。」という一言が胸に響き、アパレル関係を進路先に決めることになりました。その頃、アパレル関係で働いていたお兄さんの前向きなアドバイスが心を大きく動かすきっかけになりました。

仕事は楽しい

県立ろう学校からの依頼を受けて県障害福祉課就労連携コーディネーター（注）が、職場実習の受け入れ先を探していたところ、株式会社パルにて職場実習を受け入れていただけることになりました。

その後、就労連携コーディネーターの仲介により、県立ろう学校と同社の障害者雇用担当者が話し合い、現在、勤務しているイオンモール大和郡山にあるDiscoatにて5日間の職場実習が実現することになりました。

大好きな服に囲まれて仕事をすることに毎日わくわくと興奮していたそうです。何事にも前向きに取り組む中山さんの仕事ぶりに、周囲のスタッフも温かく応援してくれました。今回の実習を通して「仕事は楽しい。」と強く感じ、中山さんは大きな収穫を得たようです。

休日は、街へおでかけ

在学中に実施した職場実習での熱心な仕事ぶりが評価され、就職が決まりました。

就職して4か月あまりが過ぎた先日、ショッピングマナージャーの土井さんに中山さんの様子についてお伺いしました。

「いつも生き生きとした笑顔で意欲的に働く中山さん。弊社が大事にしている『共に働く』『夢を叶える』の2つのテーマを実現させて頑張っている姿にスタッフみんなが彼女を応援しています。」と笑顔でお話くださいました。

就職してから勤務日はクタクタに疲れても、休日は大阪や京都へ買い物に出かけて「街ブラ」を楽しんでいるとのこと。最近では、髪を少し染めてみたり、さりげない着こなしを楽しんでみたりと働きながら大好きなおしゃれを楽しんでいるようです。

（注）奈良県では、障害がある人の就労の拡大を図るために、就労連携コーディネーターを障害福祉課に3名配置しています。企業等へ訪問し、職場実習受け入れの拡大および調整等を行っています。

会社名	株式会社パル
大阪本社	大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神御堂筋ビル10階 TEL:06-6227-0308 FAX:06-6231-1056
東京本社	東京都渋谷区神宮前6丁目12-22 秋田ビル4F TEL:03-5468-8295 FAX:03-5468-1298
代表者名	松尾 勇
創業開始	平成28年(2016年)
事業内容	婦人服・紳士服・雑貨等の企画・製造及び卸・小売



店舗で商品整理をする中山さん

今回の取材に協力してくださった県立ろう学校の担任の先生は、「服のコーディネートについてアドバイスをしてくれる姿に、成長を感じました。」と久しぶりに出会えて嬉しそうにお話してくださいました。

ノーストレスで働く

中山さんの仕事は、バックヤードの商品管理の仕事が中心ですが、仕事の正確さは抜群とのこと。上司からの仕事内容の指示は、筆談とタブレットのUDトークのアプリを使って行い、困るような場面はあま

りないとのこと。同僚のスタッフとの普段の「コミュニケーションは、筆談やタブレットよりボディーランゲージの方がレスポンスが良く「最近ではスタッフのみなさんのボディーランゲージが上達してきたので『ノーストレス』で働いています。」と笑顔で伝えてくれました。職場のチームワークの良さが働きやすさにつながっていると感じます。おしゃれを楽しみながら生き生きと働いている姿に、将来の進路を自分で決めて、やりがいをもって働くことの素晴らしさにふれることができ嬉しく思いました。

小さい時から服が好きで将来はアパレル関係に就きたいと思っていました。でも、聴覚障害も、いるので無理か？と思い、あきらめて、他にいろんなところで実習させてもらいました。けど、やっぱりあきらめられなかったんで、アパレル関係にしました。進路のこと迷っていた時、家族といろいろ相談した時、元々服が好きでもない仕事に就いて後悔するから、好きな仕事に就いて後悔しない方がいい、と言われて、このひと言でやっぱり胸に響いたので、アパレル関係に就職したいと決めました。周りの人みんなばかりで救われています。やっぱり好きなことに就くと、良いネ!!

中山さんの直筆コメント



中山さん(左)とショップマネージャーの土井さん(右)